

部落差別問題から考える

# 私の中の差別意識

私は差別していない  
……本当に、そう言いきれますか？

24分

ワークシート付き

DVD (字幕版付き) 69,300円 (本体66,000円) [C#3941]  
VHS 通常版 69,300円 (本体66,000円) [C#3942]  
VHS 字幕版 69,300円 (本体66,000円) [C#3943]



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17  
<http://www.toei.co.jp/edu/>

## 企画意図

部落差別問題を通し、人の中に巣食う差別意識への気づきを促してゆきます。あからさまな部落差別は影を潜めましたが、まだまだ結婚差別や就職差別などは残っているのが現状です。この作品では、ドキュメンタリーを通し、差別された人々の心の痛みを伝えつつ、どうすれば差別がなくなるのか考えるきっかけを提供します。そして、自らの差別意識に気づき、正しい知識や判断力を持つことの大切さを伝えます。

### パート1

現代の部落差別の特徴のひとつは、インターネットでの悪質な書き込みなど、差別問題がみえにくくなっているということです。

それゆえ、人々は差別問題に関し、無関心になりつつあります。

人権問題に詳しい竹内良さんは語ります。

「差別とは、『バカにする』『仲間外しにする』『いじめる』そして、『人を傷つける』ことだ。あなたは身近なところにおきている差別を見落としていませんか？」

——差別とはなにか、考えて見ましょう

### パート2

「部落の人と、子どもが結婚って言ったらどうするだろうね。ちょっと考えるね」

「汚い食べ方すると『エツタみたいな食い方すな』って」

取材された人々の何気ない一言に、差別意識が見え隠れしています。

差別について、深く考えず偏見を持ち続ける人々と、結婚差別に苦しむ女性のインタビューを通して、

——なぜ差別は残るのか、考えてみましょう

### パート3

人権啓発に取り組む川口さんは語ります。

「差別する側を不自由にする。だから自分のために学習してほしい」

また隣保会館の館長、村上さんは語ります。

「この社会で、差別心を持たず育つ人なんかいない。」

しかし人は、学習することで偏見に気づき、変わることができる存在だ」

——あなたの中にある差別、偏見について考えてみましょう



東京人権啓発企業連絡会  
啓発委員長 竹内良



山口県人権啓発センター  
事務局長 川口泰司



西条市氷見交友会館  
館長 村上進